

## ワイヤレスブロードバンドに関する基本的な視点（案）

### 1 ユーザの視点

#### (1) コストパフォーマンスの向上

- ・ いろいろな無線システムが想定されるが、収益の源泉はユーザであることから、その存立は各々の無線システムのコストパフォーマンス次第であるとの認識が必要である。

#### (2) 選択肢の増加

- ・ QOS等帯域保証に重点を置くもの、ベストエフォートだが広帯域通信に重点を置くもの、接続保証に重点を置くもの、あるサービスを代替する簡易なサービスだが低廉な料金なものなど、様々なサービスの展開を容易にし、ユーザの選択の幅が広がる必要がある。

#### (3) 利便性の向上

- ・ ユーザの利便性から、様々なサービスを一つの端末で受けられることが重要。異なるサービスのローミング（メディアハンドオーバー）や、国際ローミングの観点が必要である。

### 2 産業の視点

#### (1) サービスの形態に応じたシステム構築

- ・ 電気通信事業として行うもの、電気通信事業には馴染まないが防災・非常時通信として公共的観点から構築するもの、自営やユーザが機器を購入して自ら使用するもの等、使用形態により、無線システムに要求される条件が異なることを考慮することが必要である。（品質、確実性など）
- ・ なお、上記の各々の境界が融合しつつある分野があることにも留意。

#### (2) 国際競争力の強化

- ・ 世界の地勢的、人口的な観点を念頭に置いた設計を行い、世界的システムとして海外展開していく観点が必要である。
- ・ 動きが速く大きな市場において、出遅れないよう焦点を絞っていくことが必要である。

### 3 技術革新の視点

- ・急激な技術革新に容易に対応していけるようなシステムが重要。この場合、新旧システムが混在することによる混信回避や既存ユーザを考慮したバックワードコンパチビリティについて配慮が必要である。

### 4 公共性の視点

#### (1) デジタル・デバイドへの対応

- ・先端技術が導入されればされるほど、導入されない地域と比べてデジタル・デバイドが一層拡大することから、ルーラル地域等条件不利地域への対応が必要である。

#### (2) 防災・緊急通信の確保

- ・防災通信や非常時の緊急通信としてどのように使えるのかという視点が重要。また、アドホックネットワークとして使えるのか、の視点が必要である。

### 5 電波の有効利用の視点

#### (1) 周波数の再利用の観点

- ・ブロードバンドはチャンネル当たりの周波数幅が大きくなるため、電波の有効利用のためにはパワーを小さくし、極小ゾーンとして周波数の再利用を高めることが必要である。

#### (2) 競争環境の創出

- ・事業の場合には競争環境が必要なことから、複数事業者の帯域を確保することが必要である。

#### (3) 利用形態毎のシステム統合

- ・同様な利用形態等のシステムについては、電波の有効利用の観点から一つのシステムにまとめていくことが必要である。